

裏もご覧下さい。

(転載者：豊島耕一)

安倍首相のウソ

「戦争法案」に元隊員が怒る



元陸自3曹 三浦 憲和さん

私は地対空ミサイル部隊にいて、襲撃された輸送車の救援に向かう訓練をやったことがあります。政府は物資の補給を「後方支援」といいますが、これは危険な任務で、訓練でも狙われることを想定します。そこで攻撃されれば撃ち返す。まさ

に戦場になりますよ。政府は「弾が飛んできたら活動をやめる」という。そんなことを言明したら、かえってこの一番に狙われます。敵の側に立って考えれば、攻撃すれば反撃してくる相手と、攻撃すれば逃げる相手のどっちを狙いますか。

元陸自3曹 三浦 憲和さん (61)

逃げの方にきまっています。安倍さんは国内議論を乗り切るために絵空事を唱え、そのことがさらに自衛官を危険にさらしている。最高指揮官として失格です。言葉でごまかせばごまかすほど、現場は法律から離れ、軍隊の独走が始まる。かつての日本軍と同じです。安倍首相はまったく歴史を学んでいない。安保法制は、日本の抑止力、安全を高めるというが逆です。米国内と一蓮托生(いちれん

たくしゅう)でやれば必ず戦死者が出る。日本もテロに巻き込まれる。米国もテロに苦しんでいます。国民の利益になるどころか、リスクの方がはるかに大きいと思いますね。僕は自衛隊で「兵は凶器である」「使い方を誤まるとんでもないことになる」と教育されてきました。武力はもてあそぶものではない。現役の隊員は何もものが言えません。だから僕たちOBが声を上げるんです。

米国と一蓮托生なら戦死者も

どどこでもいきなり戦闘現場に



元陸自士長 大嶋 伸幸さん (55)

私は兵庫県内の駐屯地で施設大隊に配属されていました。前線近くで戦闘に必要な橋などの施設をつくる部隊です。実際の戦闘は、今の法案のように戦闘現場とそれ以外の戦闘地域、非戦闘地域と分けることなどできません。

そもそも、敵がどこから回りこんでくるかわからない。ヘリから敵兵が落下傘で背後に降りてきたら、そこが敵の拠点になってしまふ。訓練でも、「敵は向こう」と思っていたら急に「後ろに敵がいるぞ」と言われる。いきなり戦闘現場になるんです。戦闘では将棋

みたいルールが決まっているわけではなく、どこからが絶対安全という線引きはありません。高校を出てすぐ入隊し、憲法と諸法令を守ると宣誓しました。自分たちから攻撃はしないが、万が一、攻めて来たら守らないといけない、と教育されました。海外に出て行くということは、一切言われませんでした。

今考えれば、憲法9条があったから僕らは海外に戦争に行かずにすんだのだと思います。先人たちは、よくあの9条をつくってくれました。災害派遣ではダンブで雪を捨てに行ったりするとみんな喜んでくれます。困っている時に力になれる。なんていいことだと思いました。日本防衛と関係のない戦争で若い隊員が血を流すことには絶対反対です。日本人は米国の奴隷とは違います。危険覚悟で米国について行くようなアホな考えはしてほしくありません。

後方と前線は一体として訓練



私は兵庫県姫路市の陸上自衛隊第3特科大隊で定年退職しました。特科は大砲を撃つ部隊。昔の砲兵です。退職前は第一線部隊に武器、弾薬、燃料、糧食などを補給する管理小隊長でした。後方部隊ですね。

「後方」というと付録みたいに思っている幹部もいるけど、ぼくらの隊がやられたら、前線の部隊は何もできません。軍事では国際的に兵たん（ロジスティクス）と呼ばれます。兵たんがあるから部隊全体が成り立っている。私たちは、後方部隊と前線部隊は一体のものとして訓練してきました。

元陸自准尉 牧 正明さん (65)

いま、安倍首相は米軍への「後方支援」といい、前線と切り離していかにも後ろだから「安全」というように宣伝しています。とんでもないまやかしですよ。

た。目立たないけど補給こそもっとも大事です。大事だからこそ、敵に真っ先に狙われる、危険な活動なんです。国民に実態を偽り、自衛隊員にきわめて危険な任務を押し付けるのは許せません。自衛隊員も日本防衛ではなく、米国防衛で亡くなるのは悔しいでしょう。自衛隊はよそへ出て行って戦争する必要はありません。巨大地震などの訓練を一生懸命やったほうがいいですよ。

元陸自准尉

牧

そもそも燃料がなくなれば車両は動きません。いくら優秀な戦車や航空機も燃料がなければただの鉄くずですよ。兵士も飯を食えなかつたら戦争なんてできません。補給がなければ全体が死ぬ。ぼくもやってみてその大事さがよくわかりました。

に違反していない」と言い切るでしょう。私は、厳しい訓練で心身ともに錬成してきました。それは、専守の国家防衛の遂行だと、誇りを持ってきました。自衛隊の存在は変化し、現場の隊員は飛躍的にプレッシャーを課せられるでしょう。

私は、千葉県習志野の陸上自衛隊第1空挺団に所属していました。部隊は、輸送機で目的地まで運ばれパラシュート降下し、隠密裏に周辺の偵察から敵中枢を襲撃する機動訓練などをやってきました。

ます。敵を殺傷したり捕虜にしたり、逆にそうされる場合もあり得ます。いつ攻撃されるかわからない戦場だという前提の訓練です。今回の法案で、時の政権による判断で、自衛隊が海外の戦闘地域に派遣されることとなります。しかし、自衛隊の最高指揮官である

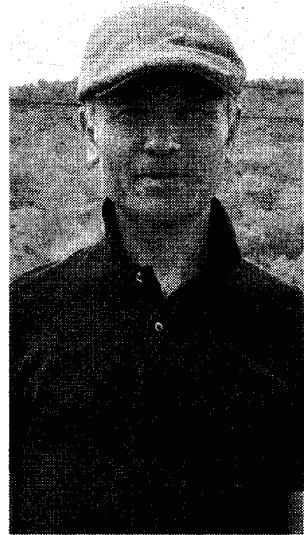
降下場所で攻撃されれば当然、戦闘になり

湯本 知文さん (57)

元陸自3曹

内閣総理大臣が直接現場に出向いて指揮することはあり得ません。戦場の変化に応じて、部隊をひきいる現場の判断が尊重されるでしょう。政府のコントロールが及ばない環境で、自衛隊が戦闘行為を行う危険性は極めて高くなると考えます。もし、自衛隊に戦死者が出るような戦闘行為が海外で行われたとすれば政府は何というか。「自衛隊を派遣（戦闘目的でない）したのであり、派兵（戦闘を目的）ではない。法的

武力によって世界平和を構築することは絶対に不可能です。自衛隊は、すべての人に向けて一発の弾も撃つことはしてはならないのです。絶対に！



武力で平和は絶対つukれない